

糸掛け曼荼羅 ワークショップ

糸掛け曼荼羅とは、板に打ちつけたピン(釘)に糸を掛けていき、曼荼羅のようなデザインにしたものです。

3回シリーズで、糸掛け曼荼羅の作り方を基本から応用まで学ぶワークショップを開催します。



- 各回で別の作品(20~30cmサイズ)を作ります。
- 各回ごとの参加でも構いませんが、初めての方は、できるだけ1回目のワークショップにご参加ください。

講師 渡部 靖之

2016年、ネットで初めて糸掛け曼荼羅を知り、見よう見まねで作り始める。その魅力にはまり、様々なサイズの作品を制作。その数100点以上にのぼる。2022年6~7月、県総合社会教育センター階段ギャラリーで作品を展示。

第1回 10月22日(土) 第2回 11月19日(土) 第3回 12月3日(土)

- ・釘の打ち方
- ・糸の掛け方
- ・標準的な曼荼羅の作成



- ・いろいろな掛け方①



- ・いろいろな掛け方 ②



※時間はいずれも 10:00~12:00

- 場 所: 青森県総合社会教育センター 4階 第2多目的研修室
- 材料費: 各回とも1,000円(板、釘、糸代として)
- 持ち物: 金づち、糸切りばさみ、ラジオペンチ、作品の持ち帰り用袋
- 定 員: 各回10名 ※各回とも、定員に達し次第締め切ります。

* 当日は適切なマスク着用でご参加ください。風邪症状のある方、熱のある方は参加をお控えください。
* 検温、アルコール消毒にご協力ください。

お申込み・お問い合わせ

青森県総合社会教育センター あおもり県民カレッジ事務局
〒030-0111 青森市大字荒川字藤戸119-7

TEL 017-739-0900 / FAX 017-739-2570

メール: alis02@jomon.ne.jp

主催: 青森県総合社会教育センター

(講座運営: 指定管理者: 豊かな学びを育む青い森グループ)

<https://www.manabi-aomori.com>



糸掛け曼荼羅の世界へようこそ！

糸かけ曼荼羅は、オーストリアの哲学者ルドルフ・シュタイナー（1861～1925）が提唱した「シュタイナー教育」で用いられた学習方法がルーツと言われています。シュタイナー教育では、板に釘を打ち、それに糸をかけていくことで、足し算、掛け算、素数などを学んでいました。

円形に打ったピン（釘）に「素数」の数ずつ糸をかけていくと、糸をかけ始めた最初の釘に必ず戻ってきます。そこには張られた糸が織りなす幾何学模様ができます。糸の色、素数の数を変えながらこれを繰り返していくと、いつの間にか「曼荼羅※」に似た模様ができあがっていきます。

今では糸かけ曼荼羅は、シュタイナー教育を離れそれ自体を楽しむようになっています。

※「曼荼羅」とは、仏の悟りの世界を表した密教独自の図像のことです。釈尊を中心として、様々な仏の集まった姿が、方形や円形の枠の中に図式的、幾何学的に描かれています。曼荼羅の本来の意味は「本質を得る」。すべてのものがつながった宇宙観や世界観を表したものと言えます。



◆ 様々なバリエーションが楽しめます！

「正方形に円」というのが曼陀羅の基本形ですが、糸掛け曼荼羅では、それにこだわらず様々な应用を楽しむことができます。また、形だけでなく、板の大きさ、材質や糸の種類も自由です。

こうなると、糸掛け曼荼羅というよりは、「糸掛けアート」とか「ストリング・アート」などと呼んだほうがいいのかもかもしれませんね。

糸掛け曼荼羅の魅力



◆ 何色の糸を選びますか？

糸掛け曼荼羅の最も重要な要素は「糸の色」です。

何色の糸を選んで糸かけしていくか。全体のバランスを考えながらも、その時の気持ち、気分によって糸を選んでいきます。かけてみてから、やっぱりこの色じゃなかったなあと思うこともあります。その際は迷わずやり直します。人間の心理はみんな異なりますから、全く同じ糸かけ曼荼羅というのはいり得ません。

どの作品も世界に一つなのです。

<作者紹介>

渡部 靖之 (Watanabe Yasuyuki)

2016年、ネットで初めて糸掛け曼荼羅を知り、見よう見まねで作ってみる。すぐにその魅力にはまり、様々なサイズの作品を制作。その数100点以上にのぼる。そのうち通常の板だけでなく、古い戸棚の扉や電気スタンドの底板、桶や釜のふた、引き出し、お盆、白樺などの木の枝をスライスしたもの、ボタンなど、様々な種類のものに糸掛けするようになった。糸掛け曼荼羅はつくづく奥が深いと感じています。